

男流

田中 愛子

将棋の女流棋士がプロ棋士の資格に挑戦する権利を得たということがニュースになっていた。男女の実力の違いとか事情はいろいろあるのだろうけれど、男女区別なくスタートラインに立てればいいのと思う。入学の試験もいろんな国家試験も男女はまぜこぜである。

(男・女・回答しない) 4名が回答しないにマルを付けてた

(女3) (男6) (その他1) なんて性別欄に書くとお

品である。「ロクーン」(Issue 24)に掲載された大松達知さんの作品である。「男子校。予備校の調査。」と詞書がある。

最近、世の中がジェンダーに関してとてもセンシティブになっている感じがする。性別を問うにしても、男か女かの選択肢だけでは間に合わないようである。当事者にとつては、男か女かのどちらにも属さない区分というのが必要だということなのだろう。あるいは、一首目の回答にある

ように、性別を問うこと自体の意味を問うべきなのかもしれない。

社会ではジェンダー平等を叫びながら、差別とも区別ともつかないこともまだ多い。試験といえは、医学部の入学試験で女性受験者の点数を最初から低く設定するなんて扱いはしていたこともあったようだが、でも男女のあり方について状況は少しずつ変わっているようだ。当たり前と思っていたこと、ほんのささいなことから変化が見える。少し前からNHKのテレビ体操に男性のアシスタントが加わったこともその表れだろうか。

先ほどの女流棋士や、女流作家、女流ピアニストのように、ことばも女性にあって男性にないことばがある。女流歌人と言っても男流歌人とは言わない。もともと男性が多数で女性が少ない世界、そういう分野で活躍する女性を指して女流というのかと思うけれど、短歌の世界ではどうだろうか。少なくともコスモス短歌会においては圧倒的に女性の会員が多いので、男性の歌人を男流歌人と呼んではどうだろうか。

夫人あり妻人はなし かたはらの脱げてしまひしサンダ
ルのごと 鈴木千登世 「コスモス」令和4年5月号
お嬢ちゃん、お坊ちゃんはいちいさな女の子と男の子。お嬢ちゃんが成長するとお嬢さまになるけれど、お坊ちゃんが大きくなってもお坊さまになるわけではありませんね。